

令和5年度 シラバス（芸術Ⅰ）

学番10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「MOUSA 1」（教育芸術社）				
副教材等	なし				

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ① 曲種に応じた発声を工夫させ、視唱力を伸ばすとともに、歌詞及び曲想の把握と表現の工夫を図る。
- ② いろいろな楽器を体験させ、視奏力（楽譜や指揮者などを見て演奏する力）を伸ばすとともに、曲の構成及び曲想の把握と奏法や表現の工夫を図る。
- ③ さまざまな鑑賞を通して、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景を学ばせるとともに、日本の伝統音楽と種類と特徴について学習させる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
以上の観点を踏まえ、ノートやレポート、実技試験などから評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の発言や演奏発表の取り組みの観察。鑑賞活動の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、他者と協力しながらの演奏活動や、より自発的な鑑賞活動などから評価します。

方 法			
--------	--	--	--

【 評価の観点 a=知識・技能、b=思考・判断・表現 c=主体的に学習に取り組む態度 】

月	単元名	時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点			評価方法
					a	b	c	
4	ソルフェージュ力の向上 アルトリコーダーの基礎 鍵盤楽器の歴史	6	ソルフェージュ 天国と地獄 C a f f e e 鍵盤楽器曲	音符を読む練習。	a	b	c	観察・実技試験
				リズムを正確に読む練習。	a	b	c	観察・実技試験
				アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。 鍵盤楽器の鑑賞。	a		c	観察・レポート
5	ソルフェージュ力の向上 アルトリコーダーの応用 音楽の要素とイメージ	6	ソルフェージュ グリーンズ リーヴス 動物の謝肉祭	メロディーを階名で歌う練習。	a	b	c	観察・実技試験
				声部を感じながらの演奏。	a	b	c	観察・実技試験
				楽器の役割や表現方法の理解。	a		c	観察・レポート
6	ソルフェージュ力の向上 アルトリコーダーの応用 様々な主題とその構成	8	ソルフェージュ ザナルカンドにて 交響曲第9番合唱	音を聴き取る練習。	a	b	c	観察・実技試験
				グループで協力しての演奏。	a	b	c	観察・実技試験
				管弦楽や声楽の表現と構成。	a		c	観察・レポート
7	ソルフェージュ力の向上 アルトリコーダーの応用	4	ソルフェージュ 見上げてごらん夜の星を	リズムを聴き取る練習。	a	b	c	観察・実技試験
				グループで協力しての演奏。	a	b	c	観察・実技試験
8	ソルフェージュ力の向上 正しい姿勢と呼吸での発声 情景を味わう音楽	2	ソルフェージュ 見上げてごらん夜の星 火の鳥	分割されたリズムを打つ練習。	a	b	c	観察・実技試験
				リコーダーの演奏曲の合唱。	a	b	c	観察・実技試験
				音楽と舞踊について学ぶ。	a		c	観察・レポート
9	ソルフェージュ力の向上 ハーモニーの響きを感じながら表現する 音楽の歴史①	6	ソルフェージュ 負けないで バロック音楽・古典派の音楽	リズムを正確に打つ練習。	a	b	c	観察・実技試験
				二声部の美しさを感じながら歌う。。	a	b	c	観察・実技試験
				バロック音楽及び古典派の音楽の理解。	a		c	観察・レポート
10	ソルフェージュ力の向上 ハーモニーの響きを感じながら表現方法を工夫する 音楽の歴史②	8	ソルフェージュ 美女と野獣 ロマン派以	リズムを打ちながら歌う練習。	a	b	c	観察・実技試験
				他パートの動きを意識しながら合わせる練習。	a	b	c	観察・実技試験
				ロマン派以降の音楽の理解。	a		c	観察・レポート

			降の音楽					
11	ソルフェージュ力の向上	8	ソルフェージュ	互いに聴き合いながらリズムを打つ練習。	a	b	c	観察・実技試験
	邦楽器の奏法		さくら変奏曲	箏の基本奏法を学ぶ。	a	b	c	観察・実技試験
	ジャズ・ロックの歴史		ジャズ・ロック	ジャズやロックの成り立ちを学ぶ。	a		c	観察・レポート
12	リズム練習	2	プリマスロック	ソルフェージュで学んだことを活用し、リズムアンサンブルに取り組む。	a	b	c	観察・実技試験
	邦楽器の奏法		六段	箏の名曲六段に取り組む。	a	b	c	観察・実技試験
	日本のポピュラー音楽の歴史		歌謡曲 J ポップ	日本のポピュラー音楽について学ぶ。	a		c	観察・レポート
1	創作①	6	和声音の使用	和声音のみの4小節の作品創作。	a	b		観察・作品提出
	日本の伝統音楽①		平安～室町	外来音楽の日本化について学ぶ。	a		c	観察・レポート
2	創作②	8	非和声音の使用	非和声音を用いた4小節の作品創作。	a	b		観察・作品提出
	日本の伝統音楽②		江戸～明治	鎖国から開国への流れについて学ぶ。	a		c	観察・レポート
3	創作③	6	一部形式 二部形式	8小節の一部形式作品創作 16小節の二部形式の作品創作。	a	b		観察・作品提出
	世界の民族音楽		声や楽器の音楽	様々な歌唱法や楽器の共通点などを学ぶ。	a		c	観察・レポート

計70時間(50分授業)

6 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
40%	30%	30%

7 課題・提出物等

- ・各学期に歌唱及び器楽の実技試験を行う。
- ・楽典や鑑賞に関する筆記試験を行う。
- ・ノートやレポートを提出する。

8 担当者から一言

音楽活動を通して「心が揺さぶられる」体験をたくさんして下さい。「心が揺さぶられる」ことが感動というものだと思います。わかりやすい大きな感動だけではなく、日々の音楽活動の場面にもさまざまな小さな感動があふれています。その積み重ねを大切にすることで、音楽に関する知識も増え、表現力も向上することでしょう。

令和5年度 シラバス (芸術)

学番10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	芸術(美術I)	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	光村図書「美術1」				
副教材等	なし				

1 学習目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動の基本的理解と体験を踏まえ、自分の良さを発揮できる表現ができるようにする。 ・自己の感じ方や発想、想像力を活かした表現の工夫ができるようにする。 ・自然、芸術作品、友人の作品などの良さに気づき、自分の感じ方で鑑賞することができるようにする。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p>
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、課題作品、作品カードなどの提出物 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイディアスケッチ、課題作品、作品カードなどの提出物 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み(出席状況、授業態度など) ・提出物の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>

5 学習計画

【 評価の観点 a=知識・技能、b=思考・判断・表現 c=主体的に学習に取り組む態度 】

月	単元名・教材名	時数	学習活動（指導内容）	評価の観点			評価方法
				a	b	c	
4	オリエンテーション (全般)	1	・高校の美術 I への意欲関心を高める。			c	学習活動の様子
	レタリング(デザイン)	2	・文字の描き方の基本を理解する。	a	b	c	作品
	鉛筆デッサン (絵画)	2	・観察力、描写力を伸ばす。	a	b	c	ワークシート、作品
5	色彩構成 (デザイン)	10	・色の三属性について理解し、色彩構成の基礎を学ぶ。アクリル絵具やトーンカラーを使用して、カラーワークに取り組む。	a	b	c	学習活動の様子
ワークシート							
アイディアスケッチ 作品							
6		抽象画 (絵画)	5	・モダンテクニックを利用した抽象画の制作を通して、基本的な造形要素を理解し、構成の原理を学ぶ。 ・主題に基づいて構図を工夫し、アクリル絵具の技法や効果を生かして表現する。	a	b	c
7	1		・互いの作品の工夫や良さを見つけながら鑑賞する。				
	版の表現 (版画)	3	・年賀状の制作で紙版画 (凹版、凸版)の技法を理解する。	a	b	c	アイディアスケッチ 作品
8	本の POP (デザイン)	2	・自分のおすすめの本を紹介する POP を制作する。(夏休みを利用して読書し、POPのアイディアを考える。)	a	b	c	学習活動の様子 アイディアスケッチ 作品
9	版の表現 (版画)	9	・「自分の好きなもの」をテーマとして、紙版画 (コラグラフ) を制作する。 ・互いの作品の工夫や良さを見つけながら鑑賞する。	a	b	c	学習活動の様子
10							アイディアスケッチ
11		1	1	1		b	c
12	石の模刻 (彫刻)	9	・紙粘土を使用して立体感覚を高める。 ・自然物をよく観察し、主題に合った着色を行う。	a	b	c	学習活動の様子
	1	1	1				
	絵を動かす (映像メディア表現)	4	・アニメーションの制作方法を理解し、パラパラ漫画を制作する。	a	b	c	アイディアスケッチ 作品
1	木彫スプーン (デザイン)	18	・使いやすく独創的なデザインを考えて、木彫で制作する。 ・刃物の正しい使い方、制作手順を考えて丁寧に仕上げる。	a	b	c	学習活動の様子
2							アイディアスケッチ
3		2	2	2		b	c
	・鑑賞、まとめ		・互いの作品の工夫や良さを見つけながら鑑賞する。(一年間のまとめ)				

計 70 時間 (50 分授業)

6 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
40%	30%	30%

7 課題・提出物等

- ・小作品（アイデアスケッチ等）
- ・ワークシート
- ・課題作品
- ・作品カード
- ・鑑賞レポート

8 担当者から一言

美術では定期考査を実施しません。授業への取り組み、作品やレポートなどの提出課題で評価しますので、提出期日を厳守してください。

授業では、自分のアイデアや工夫を生かして、自分なりの表現ができるように、完成まで粘り強く取り組んでください。自然の美しさやいろいろな芸術作品に興味関心を持ち、友人の作品の良さにも注目してください。

令和5年度 シラバス (芸術)

学番10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	芸術(書道I)	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	書I(教育図書)プライマリーブック				
副教材等	なし				

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ・「漢字の書」の学習では、様々な書風の古典を学ぶことにより表現技術を高め、それらを創作に生かしていく。
- ・「漢字仮名交じりの書」の学習では、書の幅広い表現方法を理解し、自分の思いや感動を表す言葉を選んで表現する。また、実用的な表現も高める。
- ・「仮名の書の学習」では、その成り立ちを理解し、仮名の書の美しさや表現方法を学ぶ。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
以上の観点を踏まえ <ul style="list-style-type: none"> ・制作カードなどの記入状況、内容、提出作品、基本技術能力などから評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・制作カードや鑑賞カードの内容、アイデア、提出作品などから評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み(出席状況、授業態度など) ・提出物の内容の確認などから、評価します。

5 学習計画

【 評価の観点 a=知識・技能、b=思考・判断・表現 c=主体的学習取組態度 】

月	単元名・教材名	時数	学習活動（指導内容）	評価の観点			評価方法
				a	b	c	
4	オリエンテーション	2	・「芸術」としての書への意欲関心を高める。書写から書道へ。			c	学習活動の様子
	書へのいざない	2	・姿勢・執筆法、用具用材について。		b	c	確認プリント
	鑑賞へのいざない		・漢字の変遷と様々な書体を理解し、味わう。	a	b	c	制作カード
	漢字の書（楷書の古典） 『孔子廟堂碑』	2	・楷書の基本を確認する。 ・臨書について学習する。 ・穏やかな表現、だんだん太くなる横画、向勢の構えを学び、表現する。	a	b	c	提出作品 取り組みの姿勢
5	『九成宮醴泉銘』	2	・背勢でスッキリとした表現を学ぶ。	a	b	c	制作カード
	『顔氏家廟碑』	2	・肉太でボリュームのある表現を学ぶ。 「蚕頭燕尾」の書き方ができるようにする。	a	b	c	提出作品 取り組みの姿勢
	『牛欄造像記』	2	・角張りりと直線的で、力強い表現を学ぶ。	a	b	c	
6	篆刻を楽しもう	4	・角張りや直線を生かした草稿づくりをし、造像体の書き方で、布字・運刀の仕方に注意して名前の1字を刻す。	a	b	c	活動の様子 制作カード 草稿（印の下書き）
		1	・押印し、作品の仕上げを行う。	a	b	c	作品
		1	・互いの作品の工夫や良さを見つけながら、鑑賞する。		b	c	鑑賞カード
	硬筆課題「ペン習字の基礎」	2	・漢字の楷書を中心に、硬筆の書き方を学ぶ。	a	b	c	「ペン習字の基礎」
7	楷書古典の倣書	6	・既習の楷書古典を生かして、5文字の課題へ取り組む。	a	b	c	取り組みの姿勢 提出作品
8	（新潟県競書大会へ出品）		・4種類の古典それぞれの特徴を理解し、1つの書き方を選び、古典の良さを生かしたまとまりのある作品づくりができるようにする。	a	b	c	制作カード
9	楷書の創作 （文化祭作品の制作）	4	・既習の楷書古典を生かして、漢字1字を意図に基づいて、創作する。	a	b	c	取り組みの姿勢 制作カード
		1	・裏打ちの仕方を学び、名札を付ける。	a	b	c	提出作品
		1	・互いの作品の工夫や良さを見つけながら、鑑賞する。		b	c	活動の様子 鑑賞カード
10	漢字の書（行書の古典） 『集字聖教序』	2	・行書の特徴と用筆法・運筆法を理解し、リズムや流れのある表現を学ぶ。	a	b	c	取り組みの姿勢 提出作品
	『蘭亭序』	4	・3つの古典のそれぞれの特徴の違いを理解し、表現の仕方を生かして臨書する。	a	b	c	制作カード
	『風信帖』	2	・半切1/4の紙に4字でまとめる。	a	b	c	鑑賞カード
11	行書の創作	4	・既習の楷書古典を生かして、漢字2字を意図に基づいて、創作する。	a	b	c	取り組みの姿勢 提出作品
	硬筆課題「ペン習字の基礎」	2	・漢字の行書を中心に、リズムつながりを考えた書き方を学ぶ。	a	b	c	「ペン習字の基礎」
12	仮名の書	4	・仮名の基本用筆を学ぶ。 単体（いろは歌）、連綿が美しい線質で書けるようにし、字源を覚える。	a	b	c	制作カード いろは歌の字源テスト

1	『蓬萊切』	4	・仮名の古典の臨書を通して、古典の特徴や変体仮名について学ぶ。	a	b	c	取り組みの姿勢 提出作品
2	『高野切第三種』	3	・散らし書きの仕方を学び、仮名の書の表現の幅を身に付ける。 ・料紙を使って清書をすることで、色彩の美しさを味わう。	a	b	c	制作カード
		1	・互いの作品の工夫や良さを見つけながら、鑑賞する。		b	c	鑑賞カード
2	漢字仮名交じりの書	8	・漢字と仮名の調和について学ぶ。 ・作品の構成や様々な表現の工夫によって、どのような雰囲気の違いが生まれるかを考えながら、制作する。 ・何度も練習・清書し、押印する。	a	b	c	取り組みの姿勢 提出作品
				a	b	c	制作カード
3	鑑賞、まとめ	2	・互いの作品の工夫や良さを見つけながら、鑑賞する。(1年間のまとめ)		b	c	鑑賞カード

計70時間(50分授業)

6 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
40%	30%	30%

7 課題・提出物等

①半紙作品、画仙紙作品	②制作カード(鑑賞カード等)
③「ペン習字の基礎」	④篆刻作品

8 担当者から一言

端正で美しい書写から発展し、書道の「古典」に触れる中で様々な書を知り、味わってみてください。「古典」の臨書を通して、色々な筆使いや表現方法を身につけ「書」を表現する楽しみを知ることで、表現の幅がどんどん広がると思います。集中して書くことで、達成感も得られるようになります。また、鑑賞も大事な学習となります。様々な作品を味わっていきましょう。